

会長挨拶

国大化学会会長 横山幸男（昭和49年電化卒）

横山が会長職に就いて早一年半、国大化学会会員の皆様には会の運営へのご協力を心より感謝申し上げます。今年度は昨年にも増して会の活性化に努力する所存でございます、何卒よろしく申し上げます。さて、学生会員に対する会費納入方法が改められて4年目となり定着しつつありますが、新入生から会費を先取りしていることに対する責任は大変重いと考えています。今までに増して学生支援や研究支援に力を注ぐ必要があります。新たな企画を模索し実行に移す構えではありますが、皆様方の良きアイデアをお寄せいただければなお幸いです。今年度の新たな企画として、就職希望学生の社会学習の一助になろうかと、「学生企業合同交流会」をこの6月に開催しました。学生と企業が本学教育文化ホールに一堂に会し、各学生（主にM1とB3）は興味ある複数の企業展示ブースに立ち寄りそれぞれの会社説明を受けて自身と企業とのマッチングを経験するというものです。会社訪問するとなると一日一社が関の山と思われませんが、各企業からは人事担当者においでいただいているので、学生にとっては一度に数社を回ることができるという大きな利点があります。各企業にとっても、化学を専攻しているという素性の知れた多数の学生を同時に見ることができることにメリットがあると思われれます。急に立ち上げた企画なので準備期間が短く、何社が応募してくれるか、学生の参加人数は確保できるかなど、不安材料を抱えながらのスタートでしたが、企業12社様



の出展と、84名の学生（M1の出席率は8割）の参加が得られ、実行委員会の不安を払拭すべく大変活発な交流会となりました。一人平均3社は回っているので、延べ240名一社あたり平均20名訪れたという勘定になります。成功裏に実施できたことを受けて来年以降も継続いたしますので、会員諸姉・諸兄の所属会社にもふるってご参加いただきたくお願い申し上げます。

いっぽう、ニュースでもお知らせしたように、昨年11月には、国大化学会会員の藤嶋昭さん（S41電気化学科卒）が文化勲章を受章され、同時に本学のプラウド卒業生に認定されました。同窓会としてまた個人的にも大変誇りに思うところでございます。先の国大化学会総会において、藤嶋さんの文化勲章受章記念講演「科学分野の偉人たちに学ぶ」を頂戴することができました。参加学生さんたちにはどう映ったのでしょうか、将来を期待したいところです。藤嶋さん、ありがとうございました。

順風の祈り

国大化学会副会長 藤田泰嗣（平8年 物工卒）

早いもので国大化学会副会長を拝命して5年が経ちます藤田泰嗣（平成10年修了）です。この5年間の成果を振り返ると、同窓会をとりまく環境が大きく変わり、この変化に対応してきたこと、ことこれが1番になってしまいます。国大化学会単独事業だけを考えればよかったところが、いまや校友会を始め学校との関係はますます強固となり、本会活動どころか、その在り方に至るまで変わらぬものはない勢いだからです。

その渦中にありながら、変えて良いものと変えてはいけないものを見分ける。そんな使命感に思いいたす時、まさに身の引き締まる思いにいたります。ニーバーの祈り…変えられないものを受け入れる心の平穏を、変えることのできるものを変える勇気を、そして、変えることのできるものとできないものを見分ける賢さを…と引き合いにだすまでもなく、母校と本会の歴史を思えば、敬虔な気持ちになろうというものです。

微力ではありますが、引き続き真摯にお手伝いをして参る所存ですので、若輩ではありますが、ご厚誼のほど宜しくお願い致します。

さて、同窓生にはなじみ深い相模鉄道は首都圏私鉄のなかでは唯一、都内乗り入れを果たしていませんでした。しかし目下、鉄道・運輸機構にて相模鉄道本線西谷と東京急行電鉄東横線日吉を結ぶ新線が建設されており、2019年度には西谷-羽沢横浜国大間を開業、JRと直結されることとなります。JR乗り入れ後は湘南新宿ラインと同じルートで武蔵小杉、大崎、渋谷、新宿へ。さらには池袋、大宮方面までいたる可能性もある上、東海道線への乗り入れによる品川、東京方面への直通運転にも可能性が開けます。そして羽沢横浜国大-日吉間が2022年度に完成すれば、新横浜から直接都内にいたるルートが確立する事になります。ご存知のとおり、これまでの母校は交通利便性の弱点がありました。しかし、この新線により、都内に対してのみならず、まさに日本国中に開かれ、発展の機会を得ると言っても過言ではないでしょう。このような順風の環境変化のなか、国大化学会としてはさらなる飛躍を促すべく、万全の活動を検討、推進していく事が期待される事



でしょう。本会のなしうる、学生支援、研究支援、進路支援、卒業後活動支援など、活動のアイデアと可能性は広がりますが、ともなうその責務は否応なく増しているともいえます。

流石と言うべきか、幅広い分野でリーダー的役割を發揮してきた方々が会員には多く、これは会の誇りであり、本会にとってたいへん貴重な人的財産であります。

孤高の紳士、淑女としての生き方もあろうかとは思いますが、会員の人的ネットワークを通じ、ひとつは終生変わらぬ友との心豊かな交流の機会を得、今ひとつは職務遂行上での新しい知遇を得てビジネスチャンスに繋がるといった側面も、なにより先輩後輩のつながりを通じての人生の豊かさを実現する、自らではなしえなかった夢の継承をも期待されるものと思っております。本会としての経緯もまた、単に会合を開くのみならず、同窓生同士のご縁を大切に、これをいかに、より意味のある交流の機会へとさせるか、母校発展の一助となる施策を打ち出していけるかが問われているものと考えらるべきです。

ヘラクレスの選択ではありませんが理想の会運営に向けて、正しい道を選び、母校の発展、同窓生活躍の応援団一員として、新たな未来を共に切り開く一歩、成しうることをなす一歩をなにとぞお願いいたします。

末筆ではございますが、諸先輩方々を差し置き、若輩の身でこのような貢献活動の機会、愚説を披露する機会をいただき心より感謝しております。会員皆様の健康とご多幸、ご活躍、母校横浜国立大学と本会国大化学会のますますの発展を祈念いたします。